



JR四国労組新聞

J R S U

2025年
1月1日
No.7(547)

四国旅客鉄道労働組合
〒760-0021 高松市西の丸町11-9
TEL (NTT) 087-851-1378
(JR) 086-2597~2598
http://jrso.jrsis.com/
発行責任者 / 大谷 清
編集責任者 / 和田 庄平



紫雲出山山頂より望む日の出

年 頭 の ご 挨拶



四国旅客鉄道労働組合
執行委員長 大谷 清

明けましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃の安全最優先の取り組みはもとより、JR四国労組運動にご理解とご参画をいただいておりますことに心から敬意を表し、感謝申し上げます。

昨年は歴史的な円安を背景としたインバウンドの活況も相まって全国的な移動需要の回復が見られました。JR四国グループでも鉄道・バスともに運輸収入の回復基調が継続し、『TAKAMATSU ORNE開業』や『松山駅高架事業 新松山駅完成』などもあり、第二四半期決算における連結営業収益は



日本鉄道労働組合連合会
会長 荻山 市朗

新年おめでとございます。

皆様には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃のご精励と組合活動へのご協力に感謝いたします。

本年1月末には国鉄の期間をJRの期間が超えます。そして今年には戦後80年の節目の年でもあります。JR産業は大きな転換期にあります。社会の変化に未来志向で対応し、持続的な成長を築いていかなければなりません。成果にこだわり、次代への道筋を付けるために、効果や時間を意識して新年に臨みます。私たちの決意を3点申し上げます。

コロナ禍前を超える結果となりました。コロナ禍が明け、順調に経営成績を回復させたのはJR四国労組組合員の日々における努力の成果であります。改めて組合員の皆様に感謝いたします。

私たちJR四国労組もJR四国、ジェイアール四国バスの責任組合として「安全の取り組み」を第一義に、山積する諸課題の解決に向け積極的に活動を展開してきました。特に『人財の確保・定着』が最大の経営課題となる中、『ユニオンビジョン2023』を羅針盤として活用し、労使で乗り越えるべく真摯に向き合ってきたところです。結果としてJR四国では2年連続、ジェイアール四国バスでは会社発足以来初めてとなるべア獲得をはじめ、期末手当・賞与の増額、各種制度改善等を勝ち取るなど、組合員とその家族の幸せ実現に努めてきました。一方で、矢継ぎ早に展開される効率化等の会社施策に対して、労働組合のチェック・提言機能を発揮しながら、現場目線での訴えを反映することにつながってきました。

迎えた2025年は瀬戸内国際芸術祭や大阪・関西万博といった大型イベントに加え、

まず、安全の確立です。4月25日に福知山線列車事故から20年を迎えます。改めて、事故を決して忘れず、安全最優先で取り組むよう訴えます。最近では触車、感電、墜転落などかねてより発生している類型の事故が相次ぎ、JR産業で昨年7名が労災で命を落としました。ルールや基本動作の遵守、確認の励行など、原点に立ち返り、安全確立に全力をあげなければなりません。また、昨年はJR九州高速船での不正・隠蔽やJR各社で輪軸組立作業でのデータ不正など、安全やコンプライアンスに関する社会の信用を失う事象が続きました。すべての組合員が「ルールの逸脱は許されない」との意識を持ち、問題があれば妥協なく指摘し、「自分ゴト」として取り組むよう訴えます。

2点目に労働政策です。JRグループ各社では人財の確保・定着に苦勞しています。JR産業の魅力を高めなければなりません。昨春闘では多くの組合がべアを獲得し大きな成果を収めました。しかし、社会の賃上げ水準や物価上昇分にベースアップ分は追いついていません。最低賃金も急速に上がっています。

高松サンポート地区においては新アリーナ建設や大学の移転があるほか、NHKでは朝ドラ『あんぱん』が放送されるなど、明るい話題が目押しです。私たちは安全・安定・安心輸送をはじめとする『安全の取り組み』を第一義とした運動方針を実践しつつ、四国のリーディングカンパニーであるという誇りと魅力を磨き上げるべく、最大の労働条件である賃金や諸手当、働き方の改善に向けて『継続性』を強く意識し、『人財の確保・定着』に果敢に挑戦してまいります。

JR四国グループの社会的使命である四国地域の社会・経済を支え、生活を豊かにする役割に変わりはありませんが、急速に変化する社会情勢において労働組合が担う役割と意義は極めて大きく、多様性を認め合える包摂的な環境を作りあげることが重要だと認識します。強固な団結と柔軟な発想をもった『考動』によって、JR四国労組とJR四国グループの明るい将来を切り拓いて行きます。本年が皆様にとって健康で明るく充実した1年となりますことをお祈りするとともに、JR四国労組運動に対する一層のご理解・ご協力をお願いし、新年のご挨拶といたします。

2025年春季生活闘争は社会の流れに乗り遅れることなく、成長投資である積極的な賃上げを実現すべく果敢に臨みます。とくにグループ全体に効果を波及させるためにワンチームで取り組むこととします。

3点目に組織の強化、拡大についてです。労働組合は多様な仲間を包摂して意見をまとめ、労使の交渉や協議を通じて処遇や働きがい高められる民主的な組織です。会社の職制だけでは職場の実態や働く者の課題や意見を正確に把握できません。労働組合を通じて、JR産業内はもとより、広く社会の仲間となることが可能です。JR産業の持続的な成長のためには、チェック・提言機能を持つ労働組合と健全な労使関係が欠かせません。労働組合の存在意義が実感されるよう、職場から参加の輪を広げていきたいと思います。そして、JR産業に働くすべての仲間のJR連合への総結集、JR各社とJR連合との信頼関係の強化を訴えます。

結びに、有意義な節目の1年を築くために、JR連合は全力で取り組む決意を申し上げます。新年のご挨拶とします。

「団結創造実践 すべての組合員と家族の明るい未来を実現させるべく『ユニオンビジョン2023』の
 深度化を図り誇りを持ち安心して働き続けることのできる環境づくりを推し進めよう！」
 のスローガンのもと組合員の皆様のためにJR四国労組運動に取り組んで参ります
 本年も宜しくお願い申し上げます

二〇二五年 元旦



執行委員
杉本 慶太



執行委員
和田 庄平



書記長
中村 鉄平



副執行委員長
中野 圭司



副執行委員長
武智 義治



執行委員
岩本 敏幸



執行委員
寶田 晃



執行委員
河野 憲司



執行委員
笹岡 慎平



執行委員
山本 鉄平



執行委員
西浦 慧



執行委員
今村 健一



執行委員
尾上 連太郎



執行委員
今井 勇樹



執行委員
土井 俊哉



特別執行委員
香西 若菜



特別執行委員
藤岡 祐自



特別執行委員
石川 敏也



執行委員
玉井 江吏香



執行委員
仲田 幸平



本部書記
板倉 みゆき



本部書記
木村 真由美



会計監査
河野 勉



会計監査
岡本 茂



会計監査
三好 幸治